

養護盲老人ホーム 福寿園 Monthly

平成 21 年 11 月 7 日(土) 発行 第 003 号

第 19 回福寿園文化祭

10月17日(土)、「第19回福寿園文化祭」が開催されました。あいにくのお天気にもかかわらず、地域の皆様はじめ多くのお客様が来園され、にぎやかな文化祭となりましたことに感謝いたします。今年はテーマを設け『昭和レトロ』な雰囲気再現し、展示品や装飾からそれぞれ古き良き昭和の懐かしさを感じていただけるよう趣向を凝らしました。養護盲の入所者の皆さんもクラブ発表では、銭太鼓、詩吟、大正琴、器楽を披露し、日頃の練習の成果を発揮されました。また恒例となりました歌謡ショーには、豊川市出身の演歌歌手「北原ミレイ」さんを迎え、素敵な歌声を披露していただきました。会場内は多くのお客さんで埋め尽くされ、大いに盛り上がりました。



『秋の味覚祭』だよ。

サンマに、さつまいも、栗に柿、
たっぷり満喫しましたよー！！



現場より

「おはようございます。お変わりないですか？」朝の6時、全ての部屋を周り、一人一人に声を掛ける。何事もなく過ぎたことが確かめられると、張りつめた気持ちが安堵に代わる。夜勤の時間帯の中で、一番ホッとする時間です。「ありがとう。疲れただろう。」と労いの言葉を返して下さる入所者の方。こんな当たり前の朝が続きますようにと、今晚も交代で夜勤に入ります。

福寿園の道程 (2)

昭和 55 年 12 月 25 日、澄み切った青い空、渥美半島特有の風が吹き曝していました。故名誉理事長はいつも和服姿で髪は結い上げ、歩みとともに「シャシャシャ」と衣擦れの音がし、それは今でも耳に残っています。その日、新米寮母の私達は、緊張の面持ちで受入態勢につきました。玄関に緊張と不安な気持ちで佇まれる新規入所者は、どこか落ち着きません。そんな不安を打ち消すかのように故名誉理事長は満面の笑顔で駆け寄り、手を握り、「ようこそ、御待ちしていましたよ。今日からここがあなたの御家ですよ。」と優しく肩を抱き寄せられました。一瞬に緊張感が解きほぐれ、笑顔が零れました。私たちは見様見真似で後に続き対応にあたりました。お赤飯と尾頭つきの祝い膳に涙を溢し、南向きの日差しがさんさんと降り注ぐ畳の上で、両手をいっぱい広げ、「今日からここが私の家だ。だれにも遠慮せんでいい。嬉しい。」とその方は声を張り上げられました。こうして受け入れ 1 日目が無事終わり、それから人間模様が始まったのです・・・。

施設長 斎藤久代

シリーズ化となりました『福寿園の道程』ですが、monthly と合わせまして、ご意見ご感想などございましたら是非お聞かせ下さい。



相談員より ~全盲老連ケアワーカー研修会について~

御承知のとおり、盲養護は全国で 48 施設しかない老人福祉施設の中でも希少な存在です。その盲養護がわずか 4 施設で全国盲老人福祉連絡協議会(全盲老連)を創設したのが、今から 41 年前の昭和 43 年のことでした。今では特養やケアハウス、さらに聴覚障害者施設を含めた 80 施設が加盟する組織にまで発展しました。

全盲老連の特色は研修にあり、その研修の対象職種も施設長・生活相談員・介護職員・事務職員・看護師・調理員・栄養士と多岐にわたり、その目的は各々の資質の向上、専門性を高めることにあり、その地道な積み重ねは多くの理解を得るとともに、行政側からも高い評価を得てきました。今回福寿園は 10 月 28 日から 30 日の 3 日間の日程で、第 42 回ケアワーカー研修会の当番施設となり、「新制度におけるケアワーカーの役割」というメインテーマの下に活発な議論が交わされることになりました。当番施設となるのは今回で 5 回目となりますが、現在施設をあげて全国から来る研修生を迎える準備にあたり、無事役目を果たさせて頂きました。

皆様にはその様子を追って報告させていただきます。



ショートステイの受け入れも随時行っております。近々の待機者はございませんので、入所相談等ございましたら、ぜひご連絡下さい。よろしくお祈いします。

平成 21 年 11 月 7 日(土)現在

定員 80 名 現在入所者 80 名

ショートステイ:定員 4 名 現在入所 0 名

〒441-3413

愛知県田原市六連町神ノ釜 9-3

TEL:0531-27-0008

FAX:0531-27-0828

URL:<http://www.fukujuen.or.jp>

E-mail:honbu@fukujuen.or.jp